

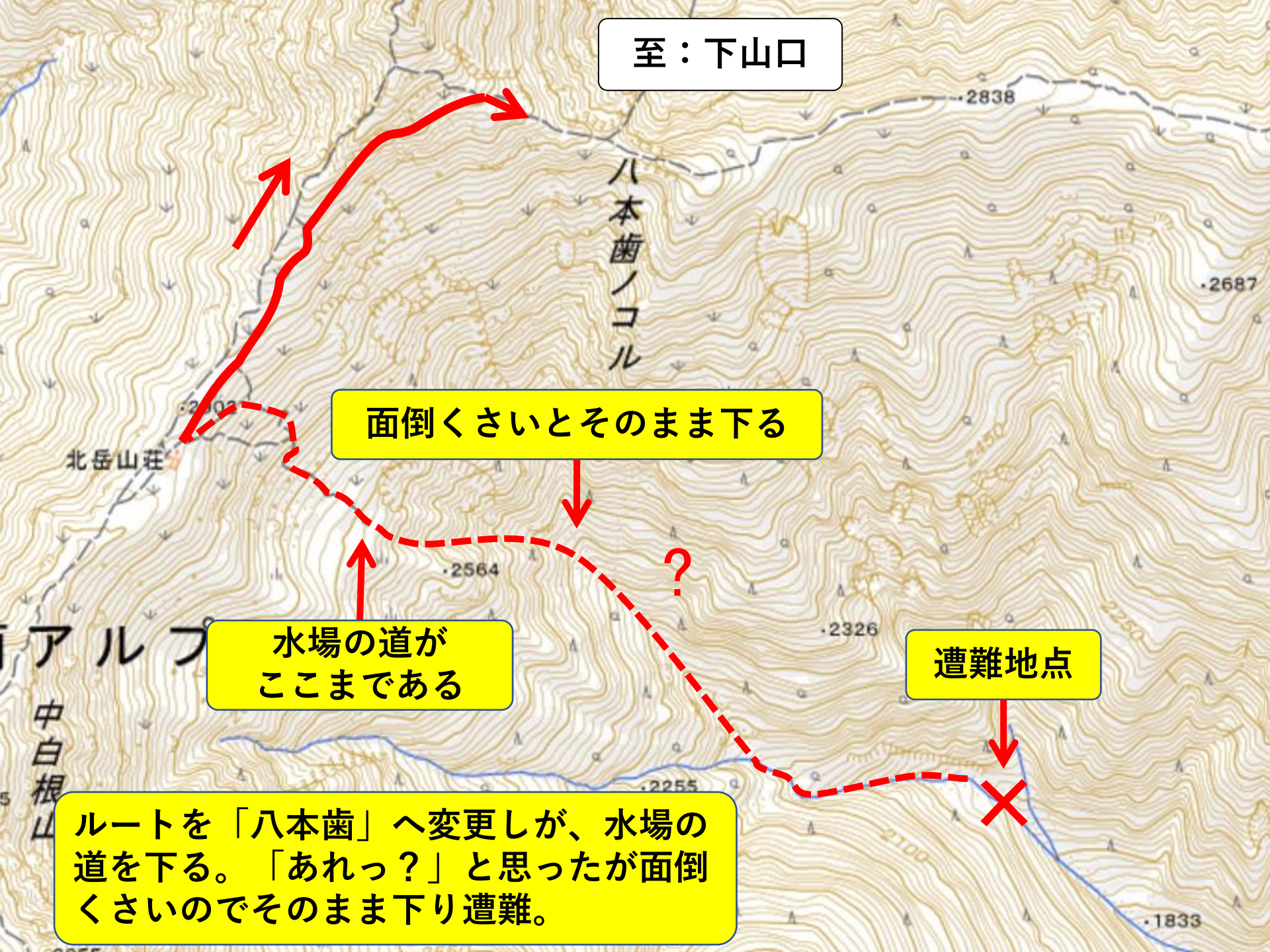
至：下山口

面倒くさいとそのまま下る

水場の道が
ここまである

ルートを「八本歯」へ変更しが、水場の道を下る。「あれっ？」と思ったが面倒くさいのでそのまま下り遭難。

遭難地点



前日に北岳に登ったが、体力が無かった。夜は食欲も無く、一睡もできなかった。こんな体調の中、霧雨が降り、北岳への登り返しよりも、トラバース道を選んでしまった。しかし、トラバース道を選んだはずが、水場への道を下り、沢へ道迷いをしてしまった。1時間ほど下ったところで、小さな沢に出たが、黄色いペンキで対岸方向に矢印が記されていた。道らしきものはなかったが、「矢印があるのだから」と沢を渡ったところで4mほど滑落した。気が動転して、「えーい、面倒臭い」とこのまま沢を下ってしまった。ビバーク中は、「沢を下る」「引き返す」「左岸の尾根を登る」「右岸の尾根を登る」と考え続ける。「『神様』教えて下さい。」祈らずにはいられなかった。水流が凄じい水音を聞いて恐怖にかられたが「なんとかなるさ」と不安を打ち消し、自分を勇気づけた。4日間、沢を彷徨った末、偶然、沢の写真を撮りに入渓した登山者に発見された。
(本文参照)

「八本歯のコル」までは、長いトラバースが続き、水場への道は、つづら折りの下りになる。全く違うのだが、道迷いに陥ってしまう。不思議だ。体力の不足、体調不良、天候、すべて複雑に絡み合っただけで道迷いに陥る。登り返す体力がないから、沢に逃げた。面倒臭いから、沢に逃げた。沢に逃げてはいけない。「なんとかなるさ」と自分を勇気づけてはいけない。沢は「なんとかならない」危険な場所と警鐘を鳴らしたい。